

科目名		プレゼン技法			
担当教員	渡邊 美歌		実務授業の有無		
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	PowerPointの操作について学びプレゼンテーションに必要な操作を理解あい、様々なツールの作成方法を学ぶPC実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. ソフトの機能を中心に描き方、表現方法を解説・演習する。 3. 条件に則したPowerPointの基本を理解する。 4. 最終的には、検定対策授業としを3級取得をめざす				
学習目標 (到達目標)	プレゼン技法の前期はPowerPointを学ぶ。在学中のコンペ資料作成、発表での操作および、プレゼンテーションに役立つ知識を身につける事を目的としている。また前期授業最終週には検定試験を受ける。全員が合格することを旨とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①PowerPointクイックマスター・講師が準備するプリント・サートファイ検定問題集				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	設定とインストール ①学内LANとサーバー接続の設定。 ②Office365のインストール ③授業データのインストール	方法：操作方法の説明と解説し、①～③課題の演習。各インストールの設定を理解している 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
2	プレゼンテーションの作成と文字編集 ①PowerPointの画面構成と文字の入力 ②箇条書きの設定	方法：操作方法の説明と解説し、課題の演習。画面構成と文字の入力、箇条書きの設定を理解している 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
3	オブジェクトの作成 ①図形描画と編集 ②ワードアート ③画像ファイルの挿入	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。図形描画と編集・ワードアート・画像ファイルの挿入の方法が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
4	表やグラフの作成 ①表の作成と編集 ②グラフの挿入	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。表の作成方法と修飾方法、表作成が理解できる。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
5	表示効果とハイパーリンク ①スライドショー ②画面切り替えとアニメーション ③スライドショー、資料の作成と印刷	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。画面切り替えとアニメーション、スライドショー、資料の作成と印刷が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
6	プレゼンテーションのカスタマイズ ①スライドマスターやセクションの作成など、 ②プレゼンテーションのカスタマイズ	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。プレゼンテーションをカスタマイズが理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
7	SmartArtの活用 ①図表の活用方法 ②SmartArtを使用した、図表作成の流れ	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。SmartArtを使用して、図表を作成する流れが理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
8	オブジェクトや表・グラフの活用 ①図形や画像の活用について ②検定対策：検定への本格的な対策	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。図形や画像の活用理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
9	検定対策 ①検定対策練習問題を使用し、検定への力をつける。 ②個々の弱い部分をアドバイス	検定取得を目的とした対策を行う。練習問題・模擬問題を繰り返しつつ、弱点に対し、個人的に指導を行う。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を復習・練習する。			
10	検定対策（模擬試験） ①検定対策模擬問題の解説 ②個人的に弱い部分を見極め、対策する。	検定取得を目的とした対策を行う。練習問題・模擬問題を繰り返しつつ、弱点に対し、個人的に指導を行う。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を復習・練習する。			
11	検定本番での注意事項と流れ ①本番での注意点の解説と確認	検定取得を目的とした対策を行う。練習問題・模擬問題を繰り返しつつ、注意点と流れを説明 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を復習・練習する。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
PowerPointの操作の習得状況は課題と検定結果から評価をします。検定結果70%、提出課題20%、平常点10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		PowerPointの必要性を周知させ、検定取得を目標としながら操作を習得します。コンペ資料を作成するためにも非常に重要なアプリのため。アプリケーションスキルをしっかりと身につけるために。最初は確実に基本を固め、操作に慣れた段階で後半には応用力をつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う			
実務経験教員の経歴					